



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

http://kyoukita.jp/nonoyama/ mail@ken-nonoyama.com

No.524 2019.7.24

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

参議院選挙 日本共産党は7議席(比例4・選挙区3)を獲得

改憲勢力3分の2を割る



結果を報告する、のの山区議と、そね都議=22日、赤羽駅東口

21日投開票の参議院選挙で、日本共産党は比例4議席、選挙区3議席の計7議席を獲得。埼玉選挙区では、伊藤岳候補が21年ぶりに議席を確保しました。

一方、自民・公明・維新などの改憲勢力は、改憲発議に必要な3分の2を割りませんでした。これは、「期限ありきの性急な改憲の動きには賛成できない」という民意を示したものにほかならず、安倍首相は、この審判を真摯に受け止め、改憲策動を中止するべきです。

日本共産党の当選者

-  **比例** 小池 晃
-  **比例** 山下 よしき
-  **比例** 井上 さとし
-  **比例** 紙 智子
-  **東京** 吉良 よし子
-  **埼玉** 伊藤 岳
-  **京都** 倉林 明子

●比例区の開票結果(北区)

※得票数は小数点以下四捨五入

党派名	今回		前回(2016年)		備考
	得票数	得票率	得票数	得票率	
日本共産党	21,721	13.87%	27,922	16.95%	
自由民主党	48,749	31.13%	52,571	31.91%	
立憲民主党	24,200	15.46%	27,062	16.42%	※民進党
公明党	21,725	13.87%	23,700	14.38%	
日本維新の会	13,986	8.93%	10,947	6.64%	※おおさか維新の会
国民民主党	6,019	3.84%	6,917	4.20%	※生活の党
社会民主党	2,803	1.79%	4,995	3.03%	
れいわ新選組	11,002	7.03%			
NHK から国民を守る党	3,939	2.52%			
安楽死制度を考える会	1,370	0.87%	10,061	6.11%	※新党改革 ※日本のこころ ※国民怒りの党 ※支持政党なし
オリーブの木	435	0.28%			
労働の解放をめざす労働者党	181	0.12%			
幸福実現党	447	0.29%	588	0.36%	
合計	156,577	100.00%	164,762	100.00%	

候補者名	党派名	得票数
当 吉良 よし子	日本共産党	21,552
当 丸川 珠代	自由民主党	27,763
当 山口 なつお	公明党	27,417
当 おときた 駿	日本維新の会	26,687
当 塩村 あやか	立憲民主党	14,809
山岸 一生	立憲民主党	9,818
当 たけみ 敬三	自由民主党	9,440
野原 よしまさ	れいわ新選組	4,525
大橋 まさのぶ	NHK から国民を守る党	3,687
水野 もとこ	国民民主党	3,671
朝倉 れい子	社会民主党	2,219
野末 陳平	無所属	1,925
七海 ひろこ	幸福実現党	757
佐藤 ひとし	安楽死制度を考える会	637
横山 まさひろ	安楽死制度を考える会	481
西野 貞吉	無所属	354
みぞぐち 晃一	オリーブの木	314
森 純	無所属	277
関口 安弘	無所属	184
大塚 紀久雄	日本無党派党	87
合計		156,604

東京選挙区 吉良よし子候補 激戦制し2期目の国会へ

参院選東京選挙区は、定数6をめぐって有力候補がひしめく全国一の大激戦区に。この中で、ブラックな働き方を強いられる若者の声を突き付け、労働基準法令違反企業の社名公表を実現するなどの成果をあげてきた吉良よし子候補が、激戦を制し第3位で当選しました。吉良氏は、「私は一つひとつの声に応えます。あなたの苦しみや困難を一つひとつ取り除き、希望の道を示すのが政治の仕事だと思うから」と決意を語っています。



選挙結果を報告する(左から)田村智子副委員長、小池晃書記局長、吉良よし子参院議員 =22日、新宿駅



現役の新聞記者、望月衣塑子氏の著書を原案とした、限りなくノンフィクションに近いフィクション映画。映画が告発するのは、権力の絶対的な指令の下に動かされ、国民世論を意のままに操る内閣情報調査室(内調)の実態だ。政府に従わない官僚を失脚させたり、政権に近い人物のレイプ事件をもみ消すことは朝飯前。ご丁寧にも、レイプ被害者が「野党筋」の人間だとでっちあげられることも厭わない。

現実と見紛う権力による情報操作の実態

映画「新聞記者」(藤井道人監督)

加計学園を彷彿させる獣医学部新設の闇に迫る女性記者と、信頼する上司の自死で自らの仕事に矛盾を抱き始める内調職員をシム・ウンギョン、松坂桃李が好演。

ネットや端末の進歩によって私たちが受け取る情報は劇的に増えたが、その情報の操作によって民意がコントロールされるという「落とし穴」―映画はそのからくりを、見事に描き出している。

日本軍「慰安婦」問題をめぐる絡み合った議論を斬新な手法で解きほぐそうと試みた「主戦場」といい、この映画といい、真剣勝負で政治の真理に挑む映画人の心意気に、目を見開かされる思いがする。(のの山けん)